

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470500923
法人名	医療法人 豊里クリニック
事業所名	グループホーム なごみ苑
所在地 (電話番号)	津市高野尾町3006番地の65 (電話) 059-230-7171
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 2 月 18 日(水)

【情報提供票より】 (H21年1月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 4人, 非常勤 4人, 常勤換算 4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(1 月 22 日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2		1 名	
要介護3	3 名	要介護4		2 名	
要介護5	1 名	要支援2		名	
年齢	平均 88.5 歳	最低 78 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 豊里クリニック 岩崎病院 豊里歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は市郊外の豊里ネオポリス団地の中央に位置し、周辺には民家、スーパー、学校、医療機関、お寿司屋等の食堂があり、地域密着型サービスの支援が出来る理想的な環境にある。理事長が以前住宅としていた民家を新築同様に改修され、誰もが住みたいと感じる二階建洋風の建物であり、玄関ではいつも優しい愛犬の「柴犬・はな」が迎えてくれる。玄関を入れれば開放的で明るい家庭的な雰囲気や馴染みの関係が感じられ、職員の明るい笑顔と利用者の安心して生活している様子が伺える。また、法人の代表者が隣接の豊里クリニックの院長であり、医療面での安心と合わせ利用者の重度化・終末期ケアについても職員も共有され対応されていることが利用者や家族の安心感、満足感になっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善や課題事項はなかったが、各評価項目をスタッフのミーティング時や運営推進会議に報告し、再度見直しをする等課題の掘り起こしを図っている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全スタッフが日々の業務の点検や反省の機会として、それぞれ自己評価を記入し管理者がまとめた。評価で気づいた事項(・理念の共有と日々取り組み・家族や地域への理念の浸透)もあり更なるサービス向上への意欲が感じられる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は利用者、利用者家族、地域住民代表、市職員、事業所からは理事長、管理者とスタッフのメンバーで概ね2ヶ月に1回開催され、自己評価や外部評価と事業所の運営等に関する報告をした後、出席者からは地域交流に係ること等多数の意見交換がされ、意見はサービスの向上に活かすよう努力されており有意義な会議となっている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会簿(シート)に苦情や要望を記入できる欄を設けたり、家族会や運営推進会議に家族の出席をいただき、重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、外部者にも苦情や意見が言える機会を設けているが、現在までに苦情や意見は無い。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	団地が出来た当初から法人の代表者が自治会のリーダーであり、事業所の開設時から自治会に加入し地域の行事(公園掃除、集会所掃除、防災訓練、回覧板の回付等)に利用者とスタッフが一緒に参加している。また、毎月地域内の豊里保育園の園児達との食事会や地域住民のボランティアの受け入れ等地域の方々とは日常的に交流している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者とスタッフの総意でつくった「その人の生き方、人格を尊重して・・・」「家庭的な環境の下で、生活できるように・・・」「地域社会とのふれあいを重視し、地元自治会・・・等との多岐にわたる交流を深め・・・」を運営理念に掲げ、地域の中で我が家のように、ゆったり安心して生活が出来る支援を実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲示や介護日誌の裏表紙に記載すると共に、日常業務においては勿論日々のミーティング時においても、常に理念に添う支援が出来るように振り返りがされ、スタッフ全員が理念を共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	団地が出来た当初から法人の代表者が自治会のリーダーであり、事業所の開設時から自治会に加入し地域の行事(公園掃除、集会所掃除、防災訓練、回覧板の回付等)に利用者とスタッフが一緒に参加している。また、毎月地域内の豊里保育園の園児達と食事会をする等地域の方々とは日常的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、スタッフ共にサービス評価の意義を理解し、全スタッフが自己評価に参加し日々の業務の点検や反省の機会としてとらえ介護内容の改善に活かしている。また、外部評価もスタッフのミーティング時や運営推進会議に報告し意見を聞く等評価を活かした取り組みをしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の運営要綱が制定され、利用者、利用者家族、地域住民代表、市職員等、事業所からは理事長、管理者とスタッフのメンバーで概ね2ヶ月に1回開催し、自己評価や外部評価、事業所での生活の様子等を報告した後、参加者から貴重で多数の意見が交わされ、意見はサービスの向上に活かすように努力されており有意義な会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の代表者が地域の医師会副会長であり、市の介護保険担当理事を兼ねており、また、市の介護認定審査委員として介護認定にも関わる等市との連携はよい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	生活の様子は家族の面会時に見ていただき、健康状態については面会の都度口頭で報告している。遠方で毎月面会が出来ない家族は利用者や家族の専用携帯電話が置いてありその電話により報告している。全体の生活の様子は年4回発行の「なごみ苑だより」で行っている。また、金銭については個々に出納簿で管理し、月1回家族に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の面会簿(シート)に苦情や要望、意見を書ける欄を設け、家族会と運営推進会議に家族の参加や重要事項説明書に外部苦情申し立て機関として国保連、県健康福祉部を記載し、外部者にも苦情や意見が言える機会を設ける等家族の要望や意見を運営に反映できるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者との馴染みの関係を重視され、スタッフ間のコミュニケーションもよく異動、離職者はほとんどなく利用者との馴染みの関係は良く出来ている。これまでに退職して代った時には利用者と一緒にお別れパーティーをし、逆に退職者が利用者にも励まされる場面があり利用者へのダメージはない環境にある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはスタッフの経験等段階に応じ参加の機会を設けて適時参加している。研修に参加したスタッフはミーティング時に伝達学習会を行っている。内部でも法人の代表者(医師)が講師で服薬管理の研修会や新人のスタッフには管理者が自ら夜勤勤務の実践指導を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム連絡協議会や三重県グループホーム連絡協議会の研修会や集いに参加、地区内の同業事業所には利用者も一緒に出かけ交流を深めるとともに、サービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の希望があれば、まず利用者と家族の要望を聞いたうえで事業所での生活について詳しく説明し、事業所の雰囲気やスタッフ、利用者同志が馴染んでもらえるよう1週間程度の体験利用をすすめ、利用者や利用者家族が納得された後に利用を頂くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々利用者との信頼関係を築きながら、利用者個々が持つ能力を最大限発揮でき、安心して楽しく暮らせるように食材の買い物、料理の味付け、盛り付け等を一緒にすることや利用者からは生け花の真髓(玄関での花の向き、南天を生ける意味等)、散歩の時出会う人にも頭を下げて挨拶する意味等学ぶことが多くあり支えあう関係が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式により利用者並びに家族から、利用者のこれまでの生活歴や趣味嗜好、要望等アセスメントを行ない、日々の生活の中で常に寄り添い会話すること、また、日々の体調と生活の様子から思いや意向の把握に努め、意向に沿うように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始前に東京センター方式により、利用者と家族から事業所での暮らし方についての希望、意向等をアセスメントしたことをベースに介護計画の原案をつくり、利用開始の1ヵ月後のミーティングで介護スタッフ等関係者の意見を反映したうえで、介護計画を作成し利用者又は家族に説明のうえ同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは3ヶ月毎に、利用者個々の生活の様子(日々の申し送りノート、毎月のミーティングノート)と利用者や家族の希望や意向を踏まえ、利用者毎の担当者が見直しの原案をつくり、月1回のケアカンファレンスで検討し介護計画を作成のうえ利用者又は家族に説明し同意を得ている。体調等に変化が生じた場合はその都度関係するスタッフで話し合い介護計画の更新をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、協力医と協力医以外の専門医への受診、墓参り、買い物、喫茶店、外食、自宅への送迎等スタッフも一緒に出かける多様な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族が同意のもと、利用者全てが隣接の協力医療機関(法人の代表者が院長の豊里クリニック)がかかりつけ医となっていて、医療連携は常に保たれている。隔週に1回受診の支援がある協力医療機関の専門外の疾患についても、容易に専門医の紹介を受けて受診でき、適切な医療支援が受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	すでに終末期ケアが行なわれており、利用契約時の段階から利用者と家族の要望をお聞きし事業所で終末期ケアを望まれば、協力医療機関(豊里クリニック)との連携、協力が得られる体制があり、出来る限り重度化や終末期ケアを行なう方針でありスタッフも共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々の誇りやプライバシーの確保については、全てのスタッフが利用者への言葉かけや面会家族等の対応について、常に意識された態度で行なわれている。また、個人情報(介護計画、介護記録、家族等の面会シート等)についても事務所で保管され、個人情報の保護、秘密保持にも十分配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ね日課はあるが、利用者個々の希望と体調を見ながら、その日の朝に、その日の暮らし方(起床、食事、入浴、テレビタイム、外出等)を一人ひとりのペースに合わせ希望に添うように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの能力や役割に合わせ、食材は近くのスーパーへ買いに行き、調理、盛り付け、配膳、後片付け等利用者とスタッフが一緒におしゃべりしながら楽しく行われている。食事スタッフもスタッフが同じテーブルで同じものを四方山話をしながら行なわれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調を見ながら、生活リズムに合わせた入浴の選択と介助を心がけ、夜間以外は毎日いつでも入浴出来るようにしている。。あまり入浴を好まない利用者については、入浴実施表とシールを活用して週2回は入浴出来るように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や日々の暮らしの様子から、さり気なく担当を決めて自分の役割を感じられるよう調理、盛り付け、配膳、後片付け、テーブル拭き等、楽しみごとや気晴らしとして買い物、散歩、針仕事、生け花、喫茶店への外出、おしゃべり等一人ひとりに合った役割や楽しみを見つけてスタッフと一緒に過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は毎日事業所周辺の散歩、近くのスーパーへ食材等の買い物にでかけている。また、月1回の外食やふるさと訪問、墓参り、足湯等その日の希望に添って対応し、日常的に外出支援を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全スタッフが鍵をかけることの弊害はよく理解されており、常時見守りを励行することにより、鍵をかけない自由な暮らしが出来ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災マップを常備、防災マニュアルを作成、緊急連絡網の掲示をし、事業所の防災避難訓練の実施と地区自治会の防災訓練にも参加されている。訓練は年に1～2回の昼間のみである。	○	災害対策の重要性は十分理解されており訓練も実施されているが、さらに非常時(火災や地震)に備え、利用者が昼夜を問わず安全に避難出来るように、市の消防署はもちろん地域の方の協力を得て、昼間並びに夜間を想定した避難訓練を定期的実施されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え「計算ソフト」で一人ひとりに必要なカロリーを計算し献立している。食事や水分の摂取量については個々に記録し必要量が確保できるように心がけている。特に水分確保については水分チェック表に種類毎(茶、ポカリ、ゼリー等)の摂取量を記入する気配りがされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を新築同様に改修され、誰もが住みたいと感じる二階建ての洋風建物で一階の共用空間は異臭がなく清潔で広々とし、玄関を入れれば利用者(元お花の先生)が生けられた花が優しく飾られ、居間兼食堂には利用者のイベント参加時の写真や作品が貼られ、音に対する配慮からテレビ室を設ける等家庭的で居心地良く過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと収納庫棚は事業所で用意しているが、その他家具や生活用品はなんでも自由に持ち込んでもらっている。なじみの家具や電気製品(ホームコタツ等)、仏壇(位牌)、鏡台、絵画等装飾品、家族の写真等が持ち込まれ、我が家で生活しているように安心して落ち着いて過ごせるように配慮されている。		